

福島県沿岸におけるババガレイ、サメガレイ稚魚の出現

福島県水産試験場 水産資源部

1 部門名

水産業 - 資源管理 - その他のカレイ類

2 担当者

千代窪孝志・和田敏裕

3 要旨

本県沿岸において、初期生態が不明であったババガレイ、サメガレイの仔稚魚が採集されたため、成魚の分布、海況とともに採集記録を整理した。

- (1) サメガレイ(3尾:TL30.5~49.3mm)およびババガレイ(1尾:TL30.1mm)の変態着底直後の仔稚魚が、調査船による幼稚魚調査、トロール調査の新舞子定線(水深30、50および15m)で初めて採集された(表1)。両種は、これまで着底直後の採取報告は他県で1例ずつのみであり、初期生態が不明であった。両種ともに沖合で着底、成長すると考えられていたことから、貴重な生態的知見が得られた。
- (2) ババガレイの産卵場は産卵期前後(1~3月)に広く分布する水深200mまでの沿岸域と考えられる(図1)。これまで本県海域では、主に4~6月に水深50mにおいて採集されたが(全長48~89mmの着底稚魚)、変態終期の着底個体(全長30.1mm)がごく沿岸域(水深15m)で採集された。本種の一部はごく沿岸に着底後、徐々に深所へ移動する可能性が示唆された。
- (3) サメガレイの産卵期・場所は2月前後、水深600~900mの局所的に漁獲される海域といわれている。常磐海域の産卵期前後(1~3月)の漁獲分布は水深200~500mであり産卵場所は不明であった(図2)。これまで本種は産卵場所が沖合であるため、沖合でふ化~着底するものと考えられていた。しかし、2008年に初めて宮城、福島県の沿岸で仔稚魚が採集されたことから、本種の一部は沖合で産卵した卵および浮遊仔魚が沿岸域で変態、着底を終了する可能性が示唆された。
- (4) 2008年3~4月は、本県海域への親潮系冷水の波及が非常に強く特異的であった(図3)。この現象が、両種の卵または浮遊仔魚を沿岸域へ輸送した可能性を考慮する必要がある。

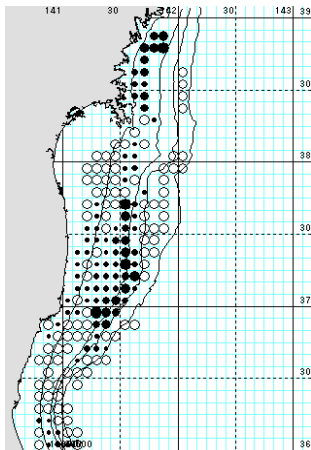


図1 ババガレイ漁獲分布
(底びき網CPUE、2007年1~3月)

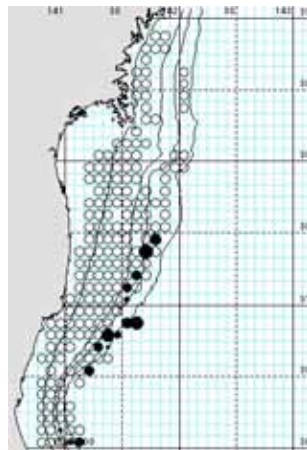


図2 サメガレイ漁獲分布
(底びき網CPUE、2007年1~3月)

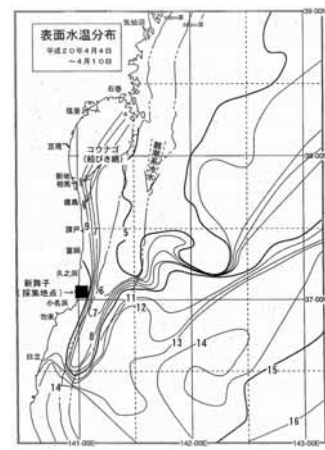


図3 表面水温分布
(2008年4月上旬)

表1 ババガレイ、サメガレイの採集状況

年月日	地点	水深(m)	調査手法	種名	全長(mm)	体長(mm)	体重(g)
2008/6/11	新舞子	30	拓水トロール	サメガレイ	35.8	29.4	0.61
2008/7/1	新舞子	50	拓水トロール	サメガレイ	30.5	25.7	0.38
2008/8/7	新舞子	30	拓水トロール	サメガレイ	49.3	41.3	2.11
2008/4/16	新舞子	15	拓水ソリネット	ババガレイ	30.1	25.2	0.20

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成20年度試験成績概要(2009)
- (2) 佐伯光広 (2001). 三陸・常磐沖合で漁獲されたサメガレイの生態と資源管理について. 宮城水産研報, 1, 93-102.